

同時資料配布先：

経済産業記者会

学研都市記者クラブ

2013 年 11 月 28 日

公益財団法人地球環境産業技術研究機構

CCS テクニカルワークショップ 2013

ー CCS 大規模実証プロジェクトに向けた安全性評価技術開発の最前線 ー 開催のご案内

我が国では、地球温暖化の要因とされる二酸化炭素を分離・回収し、地中に貯留する技術（以下、CCS と略）の大規模実証プロジェクトに向けた準備が北海道苫小牧において進められており、2016 年度には二酸化炭素の地中への圧入が開始される計画です。当機構は、これまでに CCS の安全性評価について数多くの研究成果を出しており、これらの技術は進行中の CCS 大規模実証プロジェクトのモニタリング技術として導入される予定です。

このように CCS の安全性・信頼性を構築する技術開発への注目が高まる中、当機構では「CCS 大規模実証プロジェクトに向けた安全性評価技術開発の最前線」をテーマにワークショップを開催いたします。本ワークショップでは、国内・海外の大規模 CCS プロジェクトを主導する専門家の方々を招聘し、各国の技術開発動向、最新の研究成果をもとに議論する機会をご提供いたします。具体的には、アルジェリア、日本、カナダでの CCS プロジェクトにおける取組みについてご講演いただくとともに、CO₂ 貯留モニタリングへの適用が期待される光ファイバーによる観測技術について最新の研究成果をご紹介します。

CCS にご関心をお持ちの皆様には、最新動向をお聞きいただける絶好の機会ですので、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 開催概要

主 催：公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）

共 催：経済産業省

後 援：独立行政法人産業技術総合研究所、一般財団法人電力中央研究所、Global CCS Institute、一般社団法人エネルギー・資源学会、日本 CCS 調査株式会社

日 時：2014 年 1 月 23 日（木）10:30 – 17:00（受付開始 9:45）

会 場：第一ホテル東京 5F「ラ・ローズ」（東京都港区新橋 1-2-6）

言 語：日本語、英語（同時通訳有り）

参加費：無料

プログラム（敬称略）：

- ・モデレーター：京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻 教授 松岡俊文
- ・講演 1：Upscaling CCS: How In Salah can inform Tomakomai

Iain W. Wright

(Program Manager, In Salah, BP, 英国)

- ・講演 2 : 苫小牧 CCS 実証試験の現況について
棚瀬 大爾 (日本 CCS 調査(株) 苫小牧操業部長)
- ・ポスターセッション (RITE 研究員による研究紹介)
- ・講演 3 : The Aquistore Project: Commercial-Scale CO₂ Storage in a Saline Aquifer
in Saskatchewan, Canada

Don White

(Senior Research Scientist, Geological Survey of Canada, カナダ)

- ・講演 4 : Borehole Based Monitoring of CO₂ Storage: Recent Developments in
Fiber-Optic Sensing

Tom Daley

(Research Scientist, Geophysics Department Earth Science
Division, LBNL, 米国)

- ・講演 5 : 光ファイバーによる CO₂ 圧入サイトの地層安定性観測技術開発について
薛 自求 (RITE CO₂ 貯留研究グループ 主席研究員)
- ・意見交換会 (会費制)

(詳細については添付リーフレットをご参照ください。)

2. 参加登録

事前申し込み制とします。参加を希望される方は、下記の RITE ウェブサイトより事前にお申し込みください。なお、定員になり次第、締め切らせていただきます。

<http://www.rite.or.jp/news/events/2013/11/ccs2013.html>

3. プレス登録

取材を希望される報道関係者の方は、事前にお申込み下さいますようお願いいたします。
やむを得ず当日受付となる場合は、本人確認のため名刺をご持参下さい。

本件に関するお問合せ先・報道担当：

ワークショップの内容・参加登録に関するお問合せ先

CO₂ 貯留研究グループ 白垣、中西

TEL : 0774-75-2309 E-mail : ccs2013@rite.or.jp

報道担当

企画調査グループ 広報・産業連携チーム 鉄矢、辰巳

TEL: 0774-75-2301 E-mail: pub_rite@rite.or.jp

CCS テクニカルワークショップ 2013

CCS Technical Workshop 2013

CCS大規模実証プロジェクトに向けた 安全性評価技術開発の最前線

日 程 平成26年**1月23日(木)**
10:30-17:00(受付開始9:45)

会 場 第一ホテル東京 5F「ラ・ローズ」
東京都港区新橋1-2-6

定 員 300名(定員になり次第、締め切らせていただきます。)

言 語 日本語、英語 **同時通訳有り**

参 加 費 無料

ワークショップ終了後、意見交換会を実施します。会費制3,000円。

主 催 公益財団法人 地球環境産業技術研究機構(RITE)

共 催 経済産業省(METI)

後 援 独立行政法人産業技術総合研究所、一般財団法人電力中央研究所、Global CCS Institute、
一般社団法人エネルギー・資源学会、日本CCS調査株式会社



産総研

電力中央研究所



JCCS

お申し込み・お問合せ先

【お申し込み】

下記RITEウェブサイトよりお申し込み下さい。

<http://www.rite.or.jp/news/events/2013/11/ccs2013.html>

【お問合せ】

CCSテクニカルワークショップ 2013事務局
(RITE CO₂貯留研究グループ内)

TEL:0774-75-2309

E-mail:ccs2013@rite.or.jp

開催趣旨

我が国では、苫小牧においてCCS大規模実証プロジェクトに向けた準備が進められており、2016年度にはCO₂圧入が開始される予定です。当機構は、これまでにCO₂地中貯留の安全性評価について数多くの研究成果を得てきており、それらの技術は進行中のCCS大規模実証プロジェクトのモニタリング技術として導入される予定です。CCSの安全性・信頼性を構築する技術開発への注目が高まる中、当機構は「CCS大規模実証プロジェクトに向けた安全性評価技術開発の最前線」をテーマにワークショップを開催致します。本ワークショップには、国内・海外の大規模CCSプロジェクトを主導する専門家の方々を招聘し、各国の技術開発動向、最新の研究成果をもとに議論する機会を提供したいと考えています。

プログラム

モデレーター 京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻 教授 松岡 俊文

(敬称略)

時 間	項 目	演題／講演者名
9:45-		(受付開始)
10:30-10:35	開会挨拶	山地 憲治 RITE理事・研究所長
10:35-10:40	共催者挨拶	経済産業省産業技術環境局 地球環境連携・技術室(予定)
10:40-10:45	趣旨説明	松岡 俊文 京都大学大学院教授
10:45-11:40	講演1	Upscaling CCS:How In Salah can inform Tomakomai Iain W. Wright Program Manager, In-Salah, BP, 英国
11:40-12:35	講演2	苫小牧CCS実証試験の現況について 棚瀬 大爾 日本CCS調査(株) 苫小牧操業部長
12:35-13:40	昼食休憩 & ポスターセッション	
13:40-14:35	講演3	The Aquistore Project:Commercial-Scale CO₂ Storage in a Saline Aquifer in Saskatchewan, Canada Don White Senior Research Scientist, Geological Survey of Canada, カナダ
14:35-15:30	講演4	Borehole Based Monitoring of CO₂ Storage: Recent Developments in Fiber-Optic Sensing Tom Daley Research Scientist, Geophysics Department Earth Science Division, LBNL,米国
15:30-15:50	コーヒーブレイク & ポスターセッション	
15:50-16:45	講演5	光ファイバーによるCO₂圧入サイトの地層安定性観測技術開発について 薛 自求 RITE CO ₂ 貯留研究グループ 主席研究員
16:45-16:55	総括	松岡 俊文 京都大学大学院教授
16:55-17:00	閉会挨拶	本庄 孝志 RITE 専務理事
17:10-	意見交換会	(会費3,000円)

※講演者名、演題等は変更になる場合があります。